

有言実行

令和5年度 朝礼 (5/1) 校長の話

おはようございます。

新学期がスタートして1か月がたちました。そろそろ疲れが出てくる頃かと思います。もう少しで5連休が始まります。がんばっていきましょう。

さて、皆さんのクラスを回っていると、壁にそれぞれの人がたてた目標が飾ってあるのを目にします。どれも心を込めて、いつも以上に丁寧に字を書いている様子がうかがえます。たとえば、「自習ノートを作る」とか「提出物を必ず出す」とか「話していない人と話す」など、自分の思いを言葉にしてあります。このことにちなみ、今日は、皆さんに「有言実行」というお話をしたいと思います。こう書きます。

(演題に掲示する)

「有言実行」とは、自分で言ったことは必ず行うという意味です。自分は意志が弱いから、いつも有言実行できないでいる、という人が少なくないかもしれません。しかし、それは、もしかすると目標をたてるときに、そこまで本気になっていなかったせいかもしれません。真剣になって、絶対に叶えてやるという強い意志をもって発した言葉は、不思議と何かを動かす力を秘めているものだと私は思っています。

大谷翔平選手といえば、誰もが知っている有名な野球選手です。先日、行われたワールド・ベースボール・クラシックでは、日本優勝の立役者として大活躍をしました。この大谷選手がまだ高校に上がったばかりのころ、学校の課題で「人生計画表」というのを書いたそうです。大谷選手はそこに年齢ごとに目標を書き入れました。全部で81個の目標を立てたそうです。その中には、「21歳 ローテーション入り 16勝」とあったり、「22歳 サイヤング賞」「27歳 WBC日本代表 MVP」と書いてあったりしたそうです。当時、まだ16歳の少年を見て、誰がその実現を信じられたでしょうか。ところが、多少年齢の違いはありますが、大谷選手はその通りの活躍をすることができました。MVPも2021年、史上たいへん珍しく審査員満票でアメリカンリーグ最優秀選手賞を受賞しました。まさに「有言実行」です。言ったとおりのことを成し遂げました。これは大谷選手が特別だからでしょうか。いいえ、決してそうではありません。ただ、大谷選手はこのことを誰よりも強く願い、その願いが普段の努力を支えてくれたから実現できたのだと思います。大切なのは強く願い、それをはっきりとした言葉で表すということです。

言霊(ことだま)という言葉聞いたことがあるでしょうか。言葉には「魂」が宿っている、それが言霊といわれています。言葉には神秘的な力が宿っていて、私たちに大きな影響を与えると昔から言い

伝えられています。大谷選手の「有言実行」を見ると、本当にその通りだと思わされます。

だから、言葉を使うときは慎重にならないといけません。もし、人の悪口を言ったり、陰口を言ったりしたらどうでしょう。そういう言葉はマイナスのエネルギーを運んできて、言った当人にマイナスの影響を与えます。悪口や陰口は、言われた人も傷つけますが、言った人も気づかないうちにどんどん悪い方向へ向かうものです。逆に、先月「和顔愛語」というお話をしましたが、愛語つまり優しい思いやりのある言葉はプラスのエネルギーを運んできます。そして、私はこれを絶対やると決めて言った言葉は、それを実現するように不思議な力が働いて私たちを導いてくれます。

今日は、「有言実行」という言葉についてお話しました。本当に叶えたい願いがあるのなら、はっきり言葉にしてみましょう。その言葉が、努力を後押ししてくれます。私の話は以上です。